

## 平成 27 年度第 3 回立川市総合教育会議 議事録

開催日時 平成 28 年 1 月 14 日（木曜日） 15 時～16 時 30 分

開催場所 立川市役所 302 会議室

出席者 [構成員] 清水庄平（市長）、田中健一（教育委員長）、松野登（教育委員長職務代理者）、伊藤憲春（教育委員）、佐伯雅斗（教育委員）、小町邦彦（教育長）

[事務局] 佐橋恭子（総合政策部長）、新土克也（教育部長）、小宮山克仁（総合政策部企画政策課長）、栗原寛（教育部教育総務課長）、田村信行（教育部学務課長）、泉澤太（教育部指導課長）、矢ノ口美穂（教育部教育支援課長）、亀井寿美子（教育部学校給食課長）、浅見孝男（教育部生涯学習推進センター長）、土屋英眞子（教育部図書館長）

- 議事日程
1. 新教育委員長及び新教育委員あいさつ
  2. 議題
    - I. 学校教育の現況と平成 28 年度の戦略について
      - A. 学力向上について
      - B. 学校 ICT の整備と活用について
      - C. ネットワーク型の学校経営の推進について
    - II. 特別支援教育の推進について
    - III. けやき台小学校と若葉小学校の統合及び校舎の建替え方針説明会について
  3. その他

### 議事録

#### 1. 新教育委員長及び新教育委員あいさつ

（清水市長）

定刻となりましたので、ただいまから平成 27 年度第 3 回立川市総合教育会議を開催いたします。

本日は、議題に入る前に、平成 27 年 12 月 25 日付けで教育委員の体制が変わっておりますので、新教育委員長と新教育委員にご挨拶をそれぞれいただきたいと思います。

それでは、最初に新教育委員長の田中委員長、ご挨拶をお願いいたします。

（田中教育委員長）

それでは、年も改まりました。総合教育会議でございますので、一言ご挨拶を申し上げます。改めて、新年あけましておめでとうございます。新教育委員長に就任いたしました田中健一でございます。どうぞよろしく願いいたします。

平成 27 年度につきましては、教育行政に対して清水市長には特段のご理解とご協力をいただき、心から御礼申し上げます。ありがとうございます。今年度の当初の教育予算、およそ総額 86 億円を計上していただき、第六小学校の大規模改修工事等も順調に進み、学校はもとより、児童あるいは保護者の方からも「楽しみにしています」、あるいは「地域の誇りがまた一つ増えました」と、そんなうれしい声も聞いております。

また、学校 ICT の整備によって、全中学校 9 校及び大規模改修等による校内 LAN が敷

設された小学校については、タブレット端末を導入して昨年の 11 月から使用を開始しているところであります。そのことによりまして、児童・生徒の学力向上に一段と寄与しております。改めて御礼を申し上げます。

今後、平成 28 年度予算案が 3 月議会で審議されると思いますが、よろしくお願い申し上げます。

本日、総合教育会議の議題の中においても、学校教育の現状にかんがみて、平成 28 年度の教育方針に関係する議題が提示されるかと思えます。教育委員会としては、「改革なくして教育なし」との考えのもと、さらに 1 万 2,400 余名の児童・生徒の幸せのために、市民の皆さんのために応えてまいります。平成 28 年度、どうぞよろしくお願いいたします。

(清水市長)

どうもありがとうございました。

それでは、引き続き、新教育委員の松野委員長職務代理者からお願いいたします。

(松野教育委員長職務代理者)

皆様、こんにちは。委員長職務代理となりました松野登と申します。私、教職、再任用を入れますと 40 年だったのですが、うち 24 年間、立川市に勤めました。何か役に立つことがあるのではないかと、いや、立ちたいと思えます。そういう気持ちで務めたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

(清水市長)

ありがとうございます。

続きまして、新教育委員であります佐伯委員からお願いいたします。

(佐伯教育委員)

あけましておめでとうございます。新しく教育委員にならせていただきました佐伯雅斗と申します。よろしくお願いいたします。

私は、もう立川で長く商売をしている家に生まれまして、教育もすべて、義務教育、立川で受けております。また今も私の子どもが、立川の中学校に通わせていただいております。親の目線を忘れずに、しっかりと皆様のお話と、また親の立場をつなげるようなお仕事をしていけたらいいなと思っております。しっかり務めさせていただく所存でございますので、今後ともよろしくお願いいたします。

(清水市長)

ありがとうございました。

総合教育会議につきましても、資料 1 にありますとおり、本日からこの 6 名の方々の新体制で運営をさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

## 2. 議題

### I. 学校教育の現況と平成 28 年度の戦略について

#### A. 学力向上について

(清水市長)

それでは、議題に入ります。本日の会議は議題が3件ございます。

次第の2、議題「I. 学校教育の現況と平成28年度の戦略について」でございます。まず、Aの「学力向上について」、事務局の指導課長からご説明を願います。

(指導課長)

まず、「学力向上について」ということで、今年度、東京都が実施いたしました学力調査の結果の概要を載せさせていただいたところでございます。まず、各教科の結果につきましては、(1)のところに載せてございます。こちらの数字は、東京都の平均正答率を100%としたときに、立川市の結果がどれくらいになっているのかということの数値であらわしております。また、矢印につきましては、前年度に対してその数値が増えたのか、減ったのかということで表記させていただいております。

ごらんいただきますと、小学校のほうはおおむね94%台から97%台ということで、もう一息で都の平均に到達する状況でございます。中学校につきましては、英語を除く4教科で全て100を超えておりますので、東京都の平均値を超えたということになります。英語につきましても、99.7ですので、ほぼ100%ということで、都平均というふうに捉えているところでございます。

国語につきましては、前年度の数値を若干下回っておりますけれども、大きな下降ではございませんので、基本的に前年度よりも結果がよくなったというふうに捉えております。

実は(2)のところ、もう一つ、表でお示しをいたしました、今回、中学2年生が都の学力調査を受験しておりますけれども、この子どもたちが平成24年度当時、小学校5年生で同様に都の学力調査を受けておりますので、この比較の数値をあらわしております。数字は先ほどと同じように東京都の平均値を100として換算しております。

3段目に網かけしたところで、この4年間でどれくらい変わったのかということをおあらわしております。いずれの教科におきましても数パーセント向上しているということで、この間、小学校及び中学校での教育活動の成果があらわれているのではないかと、このように考えている次第でございます。

またもう1点、都の学力調査では、子どもたちの意識調査というものも実施しております。この中で、たくさん設問がありますけれども、特徴的なものを4つ抜き出しました。1つ目は、規範意識にかかわる設問でございます。それぞれ小学校、中学校の立川市の結果及び東京都の結果ということをお数値であらわしております。なお、立川市については、昨年度の26年度の数値も出させていただきました。

ごらんいただきますと、小・中学校とも東京都の全体の平均を上回っている状況になっております。したがって、立川の子どもたちは規範意識が高まっているという状況でございます。

また、地域や社会への貢献に関する設問もございまして、こちらについては、中学校のほうがおおむね5%強、東京都よりも上回っているということでございます。

読書について3つ目に載せました。申しわけございません、資料のつくり方がわかりづらくなっておりますけれども、ここは読書をしていない子どもがどれくらいいるのかということをお数字であらわしております。したがって、数字が少ないほど読書をし

ていない子どもが少ない。逆を言えば、読書をしている子どもが多いという結果になっております。こちらにつきましても、数値でお示したように、東京都全体の数値に比べて、立川市の子どもたちのほうが読書をしているということがわかってきたところでございます。

最後、4つ目として将来への希望ということで、こちらを見ても、若干ではございますけれども、東京都よりも立川市のほうが将来への希望を持っているというような結果を得られたところでございます。

こうしたことを踏まえますと、まず学力については、これまで補習や小・中連携ということで取り組んできたところです。こうした成果が小学校、中学校とも出ているというふうに考えております。また、学校生活についても、さまざま、市の予算を活用させていただいて、各支援員を学校に配置しております。こうしたものにより、子どもたちの学校生活が安定をして、規範意識が高まっていると考えております。

今年度から立川市民科というものを始めましたけれども、こちらはやはり地域に貢献しようという子どもたちを育てていくことを目指しております。こうした数値を見ますと、子どもたち、特に中学生が、地域への貢献という意識の高まりがうかがえ始めておりますので、今後、こうした立川市民科の取り組みを通して、さらに立川に愛着を持って、市、まちに貢献できる人材を育てたいと思っております。

こうした現況を踏まえまして、28年度の戦略ということで一番下のところに書かせていただきました。まず基本は、基礎学力の定着はこれまでと同様に行うとともに、授業の中で課題解決型の学力というものが、今、問われておりますので、こうした学力を身につけさせたいと考えております。

そのためには、子どもたちが主体的に学ぶ、そういう授業に転換する必要がございますし、やはり子どもたちが学ぶ機会を増やしていくことが何より重要であると考えております。特に授業改善という面では、今年度、ICT機器を導入していただきましたので、こうしたものを活用しながら、課題解決型の学力を定着させていきたい、このように考えている次第でございます。

(清水市長)

ありがとうございました。

このことにつきまして、ご意見、ご質問をお受けしたいと思っておりますけれども、いかがでございましょうか。

(田中教育委員長)

ただいま指導課長のほうからうれしい報告がありました。ありがとうございます。今の報告を受けまして、私のほうから感想を幾つか申し上げます。

まず1つ目ですけれども、学力等の現状は、平成27年度の東京都学力調査の結果、小学校は都の平均正答率に対して4教科、平均が実績95.5%、これだけ上がってきています。また、中学校は5教科平均が102.3%、いずれも小・中学校ともに昨年と比較して学力が大きく向上している。ほんとうに事務局の皆さんのご努力に改めて感謝申し上げます。

また、中学校の2年生の学力向上の状況を拝見しますと、当時の小学校5年生であっ

た平成 27 年度当時と比較して、社会科が実にプラス 11.2%、低かった理科もプラス 3.2%と学力が大きく向上している。このことが調査で明確に示されております。さらに、生活や行動等における意識調査の結果では、読書率は小・中学生とも都の平均よりも高く伸びております。また、子どもの達の規範意識、あるいは将来の展望も含めて都の平均を上回る結果になっています。ほんとうにうれしいご報告です。ありがとうございます。

この主たる原因は何かと言われて、先ほど指導課長からも説明がございましたけれども、やはり清水市長の学校教育への深いご理解のたまものであると、改めて感謝申し上げます。

その上で、教育委員会としては、補習学習や小・中連携の効果、小・中学校への各種支援、立川市民科の導入はもとより、各学校の先生方によるアクティブラーニング、この構築により、教員の授業の質を高める、このことが重要であると考えております。ぜひそのことを踏まえながら、とりわけ平成 28 年度の立川市教育委員会の指針、これをもとにしながら、なお一層、学力向上を目指すようお願い申し上げます。

(清水市長)

感想ということでよろしいですね。ほかにございますでしょうか。

(松野教育委員長職務代理者)

私は、今、お話を聞いておまして、やはり学力の向上というとすぐいわゆる平均点など、そのことに目が行きがちなのですが、子どもにとってみますと、できた、分かったというのは、喜びなんです。私は、そういう喜びをたくさん出せるような学習を、その結果が学力の向上と考えております。

なおかつ、指導課長がここへ出した 28 年度の戦略、問題解決型の学習は重要です。今、このことに向かったの学力ですので、ある意味、生きる力、自立した力、子どもの学ぶ喜びとともにこれをどうやって育てていくのか、このことがやはり一層課題になると思っております。

問題解決的な学習から学力を高めるには、私は、子どもにとって、やればできるというふうな課題、それに、やり方がわかる、このあたりを強調するような授業改善を進めることが必要だと思います。特に、今、現場では若い先生方が多いです。そういう意味で、教員そのものに自力をつけていく、指導力を高めていく、こういうことが来年度展開されるならば、もっと豊かな学力を立川市の子どもたちが身につけていけるだろうと期待しております。

(清水市長)

ほかにございますか。

(小町教育長)

今、松野教育委員長職務代理からお話があったように、学校現場に行きますと、補習教室の中ではできた、わかった、うれしい、楽しいという声が子どもたちの間から出ているということでしたし、また、保護者の方々も、補習教室に対しては評価が大変高いところでございます。

そういった面で言うと、授業の中でつまずきのある子どもたちに関しましては、今ま

では担任の先生が個人として対応していたという場合が多いのですが、それを学校組織として対応する、なおかつ外部の学力向上の指導員の力も借りながら、先生の力だけではなくて、そのような形で取り組んでいる成果かなと思っています。

この成果は一つの成果でございまして、次にご指摘のございました課題解決型の力もしっかりとつけていきたいと思っていますので、これに ICT がかなり有効だというふうな中学校の実践も出てきておりますので、そういったところを中心に組み込んでまいりたいと思っています。

いずれにしても、子どもたちの頑張り、現場の先生方の頑張りがあってこそというふうに私は思っていますし、教育委員会としましては、その部分をいかに環境整備、支援をしていくかというところが課題だと考えているところでございます。

(清水市長)

それでは、A の学力向上につきましては以上で終了をいたします。

## B. 学校 ICT の整備と活用について

(清水市長)

続きまして、B の議題であります「学校 ICT の整備と活用について」、事務局の指導課長からご説明を願います。

(指導課長)

タブレット端末は、今年度、中学校全校、9 校に配置をしていただくとともに、大規模改修等の小学校 2 校、来年度、残りの小学校 18 校に導入を予定しております。今年度中に既に全校で LAN の敷設のほうを、現在、進めてさせていただいているところでございます。また、12 月の議会、補正予算において、来年度、中学校が使用します教科書についての電子教科書のほうを導入させていただいたところでございます。

細かい台数や導入機器につきましては、資料をごらんいただければと思います。また、ソフトウェアについても、基本的なものは載せさせていただいたところでございます。

11 月から中学校及び小学校 2 校で、この ICT 機器を活用した授業が始まっております。私どもとして、まずねらいとしては、ICT の機器を導入、活用することによって新しい学びを創造できる、このように考えております。したがって、それを目指して各学校で実践を進めていただこうと考えております。

基本方針としては平たく言いますと、まず全ての先生方に使っていただく。ICT 機器の活用スキルにつきましては、教員はさまざま差がございまして、もう既に高度なこともできる教員もいれば、なかなか活用の準備に手間取るというようなこともありますので、まず先生方に使っていただく。そうした中で、スキルを高めていただいて、効果的にどのように使っていくのかということ、複数年かけて積み重ねていきたいというふうに考えております。

実は今年度、もう実践が始まっておりますので、ビデオのほうを用意させていただきました。正面のスクリーンのほうに、短時間ではございますけれども映させていただきますと思います。市内の中学校で行った授業を撮影したものでございます。

～DVD 上映開始～

これは、子ども用のタブレットパソコンを各グループに渡して活用しているところでございます。

この場面は、実は各グループが作業した流れを教員用のタブレットに集約できるようなシステムがございまして、それを活用しております。

立川市の特徴として、各教室に大型のテレビが設置されておりますので、これとタブレットパソコンをつなげて活用するというところで、現在、進めているところでございます。

中学校では、とかく先生方が一斉に講義形式の授業が多いですが、こうした機器を活用することによって、グループでの話し合いや活動ということがこのような形で取り入れられるという一つの例です。

～DVD 上映終了～

これは、あくまでも一例ということで撮らせていただいております。まだまだほかにもグループでの話し合い活動等に活用したり、また、映像教材、大型テレビを活用しながら提示していくというような取り組みも始まっております。まだまだ、11月からですので、2か月ちょっとです。今後、こうした各学校のすぐれた実践を集積していきたいというふうに考えているところでございます。

活用に向けてということで、先ほど申し上げたように、先生方の活用のスキルというのは大きな差がありますので、民間の力をお借りすることや、さまざまなスキルを持っていらっしゃる先生方に集まらせていただいて、効果的に ICT を活用した授業、どのようにしていけばいいかということを開発していく開発委員会、また教員研修、すぐれた実践をライブラリー形式で電子データ化しておいて、それを市内の先生方が誰でも使えるような形というものを、今、構築を目指して進めているところでございます。

1つ目のご報告でも申し上げた学力向上、特に課題解決型というところで、先ほどビデオでお示したような実践を通して、子どもたちがただ聞いて考える授業ではなく、友達同士と話し合っただけで学び合うという授業への転換をしていくことによって、そうした力が身につくと子どもも考えておりますし、小学校では既にこうした学び合いの授業の研究を進めておりますので、そうした中での成果があります。これを市内の小・中学校全校に広めて、より立川の子どもたちの学力向上、そして成長につなげていければと、このように考えている次第でございます。

(清水市長)

ただいまの説明につきまして、質問、ご意見がありましたらお願いをいたします。

(松野教育委員長職務代理者)

私、算数の指導などやっておりますが、既に小学校でもタブレットを使った授業を参観しております。なるほどと思ったのは、算数は問題解決的に進めますので、特に算数的な活動を提示するのにタブレットは非常に有効です。その資料提示にしたがって筋道立てて説明するので、問題解決の学習にタブレットが活かされているのです。この活用はいいなと思いつつながら、タブレットは算数だけではなくて、いわゆる他教科、総合的な学習等の問題解決的な学習には、非常にいい武器になると思います。先生方も、今どんどん活用しています。

それまではどうだったかといいますと、先生方がスマホでカチッと撮って、ほんとうに見にくい画像を見ていました。今はタブレットで、子どもたちにも非常にわかりやすくなっています。そういう感想を持っております。いいことだと思います。

(清水市長)

ほかにございますか。

(田中教育委員長)

私のほうから、ただいま上映されましたことについての感想、それと今後、ぜひお願いしたいという点を申し上げます。

一つは、指導課長からご紹介いただいたように、この映像は立川第七中学校の理科の授業でした。実は昨年、私ども教育委員が訪問いたしまして感動したところであります。それは、理科での磁石の磁力性の流れです。2年生の1クラスの生徒たち37名が9つの班に分かれて、理科の磁石の磁力性の流れ、それを先生の指示で子どもたちが学習課題をもとに活発に取り組んでいました。全部で班が9つに分かれて、そこで生徒がそれぞれ予想を立て、タブレット端末に書き込んで、そして大型テレビに映して動画を見合う。その上で発表させて検証している。まさにこれは主体的、あるいは協働的な学びです。まさに清水市長が求めているアクティブラーニング、その最先端を見事に実践しているなということで非常に感動いたしました。したがって、今後とも生徒の主体的学びと協働的学習による学ぶ意欲、これが高まってくるものと考えています。今後のさらなるご指導をよろしくお願ひしますというのが一つです。

もう一つは、全教員が常に使える、それを生かせる、生徒一人一人がそこから学びを深めていく、そういうことが大事ですので、改めてこのICTを活用した授業の精神とか研修、制度再構築による教員の授業の質、この授業の質を高めることが必要である、そういうふうに私は感じております。これまでの教育委員訪問からそのことを強く感じておりますので、引き続きこのICTの活用について、併せて生徒活用についての指導をよろしくお願ひ申し上げます。

(清水市長)

ほかにございますか。

(佐伯教育委員)

教員の皆さんも十分勉強なされているということなのですが、親のほうから子どもを見ていますと、覚えていくスピードの速さというか、それを使いこなしていくスピードがものすごく速いものがあります。自分の学校で考えられた指導の方法、また、よそのそういった情報の交換というのを必ず迅速に行っていただいて、幅広く情報を集めていただいて、より効果的なものをしていただくということと、また、親によってはこういうもの自体を受け付けない親というものがいらっしやって、家で一切そういうものに触れさせていないのに、学校で触れるということに恐怖心を覚えていらっしやる方もいます。

また、学校で導入されたがために、家でも与えなければ遅れをとってしまうのではないかという心配をなされています。お安いものではないので、そういったことを児童や生徒の親御さんにも、ほんとうに家でこれが必要なものなのか、学校ではどうということ



に使っているのかということ、学校公開などを通じてしっかりと知らせていただけたら、より円滑に進んでいくのではないかと考えております。

(清水市長)

指導課長、このことについて、何かコメントはありますか。

(指導課長)

ご指摘のご意見があるという認識は持っております。やはり私ども、この ICT の端末はあくまでも授業を進めるうえでの道具の 1 つであるという認識でおります。決してご家庭に 1 台なければならぬような使い方を目指しているものではございませんので、そうしたところは、今、委員からもお話にあった学校公開等で積極的に ICT 機器を活用した授業をとるのは既に学校にもお願いしているところでございます。そうした中で、子どもたちが授業の中で考えるきっかけづくりというところでうまく活用できるように進めていきたいと思っております。

また、すぐれた実践を全校にというのは、先ほどもコンテンツライブラリーという形で申し上げておりますけれども、そうした各教員が見られるネットワーク上のスペースをとっておりますので、まだあまり上がっておりませんが、これからどんどん上げていって広げていきたいと考えております。また、校長会等でも各学校の実践を紹介するようにしておりますので、そうした中でご指摘いただいたことについては実現させていきたいと考えております。

(清水市長)

ほかにございますか。

(田中教育委員長)

先ほど指導課長から非常に大事なお話があったので、それに触れて私の考えも申し上げます。

実は、基本方針の中に、効果的な事例を開発し全校で共有する、その意味のお話を指導課長のほうからいただいて、これは大事なことであると思っております。それは、すなわち具体的な取り組みの中で、コンテンツライブラリーの構築による研究校や先進校、個人が開発し、あるいは実践した活用事例を共有できるシステムを構築中と、そのような説明がございました。これは、当市の児童・生徒の新しい学び、それを創造していくと同時に、一段と学力が向上する、私はそのように捉えております。

その意味で、先進校においては ICT の活用によって学力向上が検証されておりますので、平成 28 年度の戦略として、ぜひお進めいただくようお願い申し上げます。

(清水市長)

素朴な疑問で、今の映像を見ているとグループで使っていましたね。私は 1 人 1 台でやるのかなと思っていたのだけれども、例えば 4 人で 1 台使えばいい、1 教室にせいぜい 7、8 台。そうすると、5 つか 6 つの教室に分散して子どもらが使っている、こういう理解でいいのですか。

(指導課長)

学習内容に応じて、今、市長がおっしゃっていた 1 人 1 台の環境で使うこともございます。あと、小グループで学び合うような学習を行う場合は、先ほどは 9 グループに分

かれたので9台使いましたけれども、そうしますと複数の学級で同じ時間でも活用できるということになります。両方、調整しながら学校のほうで活用を進めていただければということでございます。

(清水市長)

いずれにしても、子どもが勉強しながらにこにこやっているなんて、ほんとうにこんなすばらしいことはないです。間違いなく効果があるでしょう。

それでは、ほかにご質問等はないようでございますので、Bの議題であります「学校ICTの整備と活用について」は以上で終了いたします。

### C. ネットワーク型の学校経営の推進について

(清水市長)

続きまして、Cの議題であります「ネットワーク型の学校経営の推進について」、事務局の指導課長からご説明をいただきます。

(指導課長)

ネットワーク型の学校経営につきましては、平成26年度から学校のほうに推奨しているところでございます。資料の図は、平成23年から26年までの期間に、それぞれのカテゴリーで分けましたけれども、市内の各学校が個人やさまざまな団体、企業等とどれぐらい連携をしているのかというものを数字であらわしたものです。

具体的には、例えば子どもの登下校の見守りをご協力いただいているものも含んでいますし、民間の方に実際に学校に来ていただいて授業のお手伝いをいただく、もしくは主たる指導者としてご説明をいただいたりということも含んでおります。また、教員の研修等にお招きした大学の先生等も1つとカウントしているところでございます。

例えば市役所というところでは、教育委員会はあまり呼ばれていませんが、ごみ関係の所管課の方に来ていただいたりとか、または建築関係のほうでお手伝いをいただいたりというような連携もあるところでございます。この期間内で、おおむね1,174名というか、団体の方とやっております。

ただ、いろいろ重複している方もいらっしゃると思いますので、延べということでごらんいただければと思います。今、学校教育というのは学校だけで完結するものではないと考えております。こうした立川市内にいらっしゃる多くの方々、また企業の皆様にお力添えをいただきながら、子どもたちの教育の充実というところに努めているところでございます。

このネットワーク型の学校経営についての今後の戦略でございますけれども、図のほうで、左側のネットワーク型の学校経営は、先ほども申し上げたように26年度から私どものほうで各学校にお願いしているところです。28年度以降は、右側の丸の中にある学校支援地域本部ということで、国や東京都の補助制度がございますので、こうしたものを活用しながら進めていこうと思っております。

さまざま、多くの方と連携するに当たって、やはりそうした方々をコーディネートする立場の方が必要になってきます。現在は学校の副校長等が中心になって連絡調整をしていますけれども、ネットワークが広がっていくとなかなか難しくなってくるというこ

とで、この支援地域本部事業というのは、そうした地域の方の中でコーディネーターをお願いしていくという形になっております。地域の皆様に学校支援をいただくとともに、地域の皆様が、生涯学習であったり、ご自身の自己実現を図ることにつながっていくということで、地域の皆様のお力を借りられればということで、28年度から導入をしていく予定でございます。

おおむね3年間で全校にこうした事業を展開できるようにしていき、より広いネットワークを構築できればというふうに考えているところでございます。さまざまな学校教育の充実の切り口がございますけれども、立川市の大きな特徴としてネットワーク型の学校経営というのは、現在、進めておりますので、今後、より多くの市民の皆様のご協力を得ながら展開をしてまいりたいと考えているところでございます。

(清水市長)

このことにつきましてのご質問等をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(田中教育委員長)

ネットワーク型の学校経営の推進、夢と希望があふれる取り組みだろうと思います。

このネットワーク型の学校経営の推進に当たっては、国や東京都の補助制度を活用して、学校と地域を結ぶ地域人材による地域コーディネーターを介す。これを取り入れまして、平成23年から26年度とこれからの28年度の戦略、これを比較していただくとよくおわかりだと思うのですが、メリットとして考えられるのは、これまで学校の校長先生や副校長先生が抱えている負担感がかなり軽減されるな、そのように思っております。また、団塊の世代の方々がこれまで培った経験知をお持ちですので、そういうものを学校という身近なフィールドに生かす、そのことによって希望あふれるまちにつながる。先ほど指導課長のほうからお話がありました地域の方々の生涯学習につながり、しかも自己実現が図られているものと思います。

あわせて、この学校支援地域本部として制度的にも担保されるメリットは大きいと思います。そういう点で、なお一層、このセッションを進めていただきたいと思います。

したがって、平成27年度の戦略の後に、学校と地域を結ぶ地域人材による地域コーディネーターを配置する、このことは実はネットワーク型の学校経営の充実を考えた場合には不可欠の戦略であります。平成28年度はこの方針の実現に、一層、ご努力願いたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

(清水市長)

ほかにございますか。

(小町教育長)

このことに関しましては、学校をいかに子どもたちのためにとということで、教育の充実を図るには、先生方だけではなくて、やはり地域の力を生かすという方向性の中でネットワーク型の学校経営に取り組んでまいりました。そんな中で、今、教育委員長からのご指摘があった部分でかなり、人材の発掘であるとか、スケジュールの調整であるとか、具体的な交渉であるとか、なかなか学校の負担が多くなっているという声を現場からお聞きしたところでございます。

そういうような現状と課題を解決するために、国と東京都の制度で学校支援地域本部

という制度がございまして、これは予算を含めて制度的な裏づけをいただけるということでございます。以前から取り組んでいただいております地域の方に、引き続き、地域コーディネーターということで、制度的な裏づけができて、なおかつ持続可能な取り組みになるのではないかと戦略のもと、地域コーディネーターを入れるという方向性を考えたところでございます。

いずれにしても、子どもたちの意欲ある学びを広げるためには、やはり学校を中心といたしまして地域が連携することが必要であります。またそれが地域の活性化にも結びついていくということで、教育委員長職務代理者がよくおっしゃるように、コミュニティスクールでもあるし、スクールコミュニティでもあるということではないかなど私は思っております。このような取り組みを展開することによって、子どもたちの学びを豊かにしてまいりたいと考えているところでございます。

(清水市長)

ほかにございますか。

(松野教育委員長職務代理者)

私も現場にいるときに、地域の方々にとってもお世話になりました。やはり子どもたちは地域の支援者から生き方を学ぶことが一番大きいです。

学校と地域の連携では、地域の方々が学校を支援し、あるいは学校からも地域へ参加する。お互いに相互交流をしながら、何を目指していくのかということを考えました。つまりところは共生社会、共に生きるという、それをどう取り組んでいくかです。

昔は学校というと、つまり施設を使用するのも結構うるさかった時代があります。私が社会教育委員をやったときは、まだ学校を地域に開放するという事は「え？」という現場の声が多かったのです。考えてみると市民の財産ですが、施設の利用の考え方にも、現場と隔たりがありました。

でも、そういった垣根を越えながら、地域も学校も、ネットワーク型の学校経営により、学校を学び合う拠点として高めていけば、コミュニティスクールも、あるいは学校中心として、そこから地域を活性化させるスクールコミュニティも当然視野に入れていけると思います。また、小・中連携活動を高めることも可能となります。そういう意味では、ネットワーク型の学校経営は次への可能性を秘めた方策です。

どうやって地域人材を集めるかですが、やはりこれも学校に期待したいところがあります。ただ来てくださいではだめですから、どうやって学校の必要感を訴えながら地域に働きかけていくか、このあたりが課題になっていくだろうと思っております。

28年度にどう展開されるか、期待しております。

(清水市長)

これも全く素朴な質問ですが、今までも小学校や中学校の周辺に住んでいる方が、例えば南砂小学校では、毎年、菊の大輪づくりを地域の方が子どもたちに教えています。あるいは西砂のほうの農家の人たちがサツマイモづくりのお手伝いをしたりとか、いろいろなことをやっています。それらをここで組織として確立をしていこうと、こういうことなのでしょう。

もう一つは、今までは学校を応援している支援員制度があります。4、5人の人たちが

地域の中で学校をバックアップして、学校と地域をつなぐような、10年ぐらい前からですか、始まっています。それとのすみ分けというか、整合はどう図っていくのでしょうか。

(指導課長)

まさにこれまで各学校がそれぞれの地域の特色を生かして、今、市長から例として出ているような活動が行われています。そうしたものを立川市民科というのも関連づけながら進めてまいりますので、それを組織的に進める体制をこれで作っていきたいと考えております。

特にこれからはそうした活動も大切であるというふうに考えております。そうした意味で、やはり調整役であるコーディネーターがしっかり各地域にいるということが内容を充実・発展させるうえで不可欠ですので、そうしたしくみづくりのために行っております。

これまでにご支援いただいている支援員さん等も、制度ともうまく融合しながら進めていこうと思っております。これまで個別にあったものを1つにまとめられるような方向性をもって、今回、こうした取り組みを次年度から進めていきたいと考えているところでございます。

(清水市長)

ほかにございますか。

(小町教育長)

今、指導課長からご説明したとおりでございまして、私ども、学校現場に行くと、どうしても地域でご支援いただく方が固定化してしまう、高齢化してしまう、ニーズも減ってきたという声が学校現場としてございます。どのような方たちにお声かけをしているのですかということをお学校から表にして出していただきました。学校によって大変偏りがあります。例えば大学と全然連携していないところもありますし、また企業と連携していないところがあったり、ある学校は満遍なくその先を見越しながら、人材開発を仕掛けているという学校もあって、なかなか人材開発に向けて組織的に動いていないということがございます。やはり持続可能な形にしていきたいというふうに思っていますので、それにはこのような制度的な裏づけがあればより持続可能になると思っています。

それから、最終的には、学校現場の責任者でございます校長先生がしっかりと、もちろんコーディネーターのコーディネート力を発揮していただくのですが、最終的には校長先生が面談していただいて、学校の方針をご理解していただいたうえで参加していただくというような基本方針は変わりません。この取り組みの方向性としては、今までの実績をもとにしながら、なおかつそれを制度的に裏づけて持続可能なものにするというふうに捉えていただければと思います。

(清水市長)

それではCの議題であります「ネットワーク型の学校経営の推進について」は、以上で終了いたします。

## Ⅱ. 特別支援教育の推進について

(清水市長)

次に、「Ⅱ. 特別支援教育の推進について」をご説明願いたいと思います。教育支援課長からよろしくお願いします。

(教育支援課長)

本市における特別支援教育の推進についてご説明いたします。

国の法改正の動向や東京都の特別支援教育推進計画等を踏まえまして、本市では平成26年3月に特別支援教育実施計画を策定いたしまして、現在は計画に沿った取り組みを推進しているところです。それ以前にも、就学支援制度の導入ですとか、小・中学校への特別支援教育支援員、介助員の派遣等を行いながら、庁内の関係部署との横断的な連携による途切れ、すき間のない相談支援体制の構築に努めてまいりましたが、計画の策定を機といたしまして、3つの基本指針のもと、5つの基本施策を掲げ、15項目、39事業にわたりまして、体系的、年次的に充実や検討を進めております。

本市の現状でございますが、資料中段にお示しをいたしましたグラフをごらんください。就学相談の件数、特別支援学級に在席している児童・生徒数、ともに増加の傾向にございます。中でも顕著な伸びを見せておりますのが、グラフ一番右の情緒障害等通級指導学級の児童数で、昨年度に小学校1校を増設したこともありまして、4年前と比較して、小学校では2倍の増加となっております。これらを背景としました新たな取り組みのうち、特徴のあったものを4点、補足させていただきます。

まず1点目は、早期連携・早期支援の取り組みでございます。子ども家庭支援センター発達支援係との共催で就学相談の説明会を開催したり、就学支援シートの活用について周知を進めております。昨年度は、発達支援の親子グループに参加していた年長の児童のうち、半数が就学相談につながっております。

子ども家庭支援センターでは、昨年度より、保育園や幼稚園の年中児を対象に5歳児相談を開始しておりまして、徐々に連携強化を図っているところです。

2点目は、教職員の専門性の向上の取り組みでございます。固定学級については、今年度、都立武蔵台学園と連携し、授業研究を通して、指導内容、方法の工夫や教材の開発について具体的な助言をいただき、授業改善を進めています。通級指導学級におきましては、本市に在席しております指導教諭が年4回行う模擬授業を活用しまして、指導教諭の指導技術を学び、各教員の専門性向上を図っております。

なお、いずれの学級とも、年に3回、教育委員会主催の研修において、講義や授業研究を行うほか、特別支援教育に関する最新の情報を周知するなど、内容の充実に努めております。

3点目は、増加している発達障害等のある児童に対応するための取り組みでございます。26年度に小学校の通級指導学級を1校増設いたしましたが、依然として入級希望の児童が増加している傾向が続いております。そこで、1人でも多くの児童をより早期に適切な指導、支援につなげるため、本市では東京都のガイドラインに基づきまして、来年度より教員が児童の在籍校を巡回して指導を行う特別支援教室を導入し、今後、30年度までに全小学校に導入することを目指しています。初年度となります28年度は8校

で導入することとし、本年 10 月より、モデル授業を実施しながら課題の整理や検討を行っています。

4 点目は、学校における特別支援教育の取り組みを支援するための専門職の派遣です。26 年度より、全小・中学校へ臨床心理士を巡回相談員として派遣し、通常の学級に在席している児童・生徒の実態把握や教員への助言等を行っています。

また、27 年度からは、新たに市に特別支援学校等で豊富な教育経験を有する人材を教育支援相談員として配置し、介助員を配置している通常の学級の児童・生徒や知的障害学級での指導、支援に対する助言、相談等に対応しております。

一方で、課題としては、障害の程度や状況が大変に多様化しており、より専門性が求められていること、発達に課題のある児童・生徒が増加をし、相談や支援の体制が追いついていない部分があることが上げられます。今後とも、障害のある児童・生徒の能力や可能性を最大限に伸ばし、自立と社会参加を目指すために、一人一人のニーズに応じたきめ細やかな支援を行ってまいりたいと考えております。

(清水市長)

以上につきまして、ご質問、ご意見をお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(田中教育委員長)

この立川市の情緒障害等通級指導学級利用児童・生徒数の推移、平成 24 年度と平成 27 年度を比較しますと、児童数が実に 30 名台の増加です。生徒数は 7 名の増加。つまり、このことからわかることは、今後、なお一層、増加する傾向が予想されると思います。

そこで、私としては、3 点、自分の意見、あるいは考えを申し上げたいと思います。まず第 1 点目ですけれども、保護者のためにも早期連携、早期支援策を一層充実いただくことをお願い申し上げます。特に就学支援シートの積極的な活用、これが大事ではないかと思います。そのために、現在、取り組んでいる就学支援シートの書式、これはホームページに掲載してあるわけでありましてけれども、シートの入手の利便性を図るうえで、これまで以上に啓発を図っていただくことをお願い申し上げます。

第 2 点目ですけれども、この発達障害の児童・生徒の積極的な対応についてでございます。これは平成 26 年 4 月、第八小学校に情緒障害等通級指導学級が開設されたわけですが、この中で学校の適切な指導によりまして、児童はもとより保護者からも非常に感謝されております。

この状況、私どもは教育委員訪問でも確認しているところでございます。こういったものは合計 4 校に設置されたわけですが、一層の取り組みをお願いしたいのと同時に、また特別支援教室の導入準備については、東京都発達障害教育推進計画にも注視しながら、本市としては他地区に先駆けて平成 28 年 4 月の一部導入に向けて取り組んでいるわけですが、したがって、平成 27 年 10 月から 8 校においてモデル授業を開設し、平成 30 年までに全校に特別支援の教室が導入される、このような予定になっていると思いますので、ぜひ一つ一つ丁寧に準備のほうに取り組んでいただきたいと思います。

また、この導入のため、教員の研修の充実、あるいは教育環境の整備、適切な教材の確保と、幾つも課題があるかと思いますが、円滑に導入の準備をお願い申し上げます。

最後になりますが、教員の研修の一層の拡充をお願い申し上げます。管理職対象の特別支援教育研修、あるいは特別支援教育コーディネーターの研修、合わせて特別支援教育をテーマとする校内研修のいずれもが重要な研修になるわけですが、この中で大きな役割を担うのが臨床心理士の方々かと思えます。そういう点で、この臨床心理士の方々を中心とした指導、助言がますます今後、大事になると思いますので、合わせて研修のための拡充を一層ご検討し、取り組んでいただくようお願い申し上げます。

(清水市長)

ほかにございますか。

(伊藤教育委員)

立川市の特別支援教育に関する取り組みはほんとうに素晴らしいものと考えております。ご苦勞が多いと思えますけれども、より一層、頑張ってくださいと考えております。

私も平成7年から母子保健連絡協議会という、約20年間、ずっと続いているところに参加させていただきまして、当時の初期の対応は、それぞれがみんな、一生懸命やっているのですけれども、立川市はなかなか横のつながりがないというのが今から20年前のお話でございました。

それが、現在、各部署のほんとうに素晴らしい取り組みによりまして、例えばここにもあります早期連携、早期支援というのが、当然、大切なことはわかっているのですけれども、なかなか難しかった。それから、関係機関との連携、子ども家庭部、福祉保健部等、それぞれの関係がとてもいい関係で連絡が密になることができています。

これは、今から10年ぐらい前に日本障害者歯科学会のほうで、立川ではこれだけの取り組みをやっているというようなことを私が発表して、立川はすごいねと言われていたのが、また一層、始まってきて、よく進歩してきていると評価しております。

特に子ども家庭支援センターにおきましては、お母様方がほんとうに相談しやすい場所、どこに行ってもいいかわからない、悩んでいる方がとても相談しやすい場所ができたということで評価は高いです。お母様方の間で、立川市はいいわねというのがとても話の中に出てきております。

その分だけ、現場にいる方々、当然、かかわる方々のご苦勞は大変にはなると思いますが、より一層、頑張ってくださいということで、お礼をとということで発言をさせていただきました。

(松野教育委員長職務代理者)

質問してよろしいですか。

(清水市長)

どうぞお願いいたします。

(松野教育委員長職務代理者)

質問いたしますが、情緒のほうの通級の増加等による、このグラフでこの推移はわかるのですが、きこえとことばのほうはいかがですか。

(教育支援課長)

きこえとことばに関しましては、やはり微増傾向にございます。情緒ほどの急増では



ございませんが、徐々に増加をしている傾向はございます。

(松野教育委員長職務代理者)

七小、けやき台小の状況だと、かなりいっぱいいっぱいではないでしょうか。

(教育支援課長)

七小とけやき台小の状況は、現在のところやはり増加傾向ということでございますが、先生方にそれでもご対応いただいている状況ですので、いっぱいいっぱいというよりは、徐々に相談等も受けながら支援につなげているという状況でございます。

(松野教育委員長職務代理者)

ありがとうございました。

(清水市長)

ほかにございますか。よろしいですか。

それでは、この議題につきましては、これで終了いたします。

### Ⅲ. けやき台小学校と若葉小学校の統合及び校舎の建替え方針説明会について

(清水市長)

次に、「Ⅲ. けやき台小学校と若葉小学校の統合及び校舎の建替え方針説明会について」、教育総務課長からご説明を願います。

(教育総務課長)

けやき台小学校と若葉小学校の統合方針につきましては、昨年の9月10日の教育委員会で決定をしたところでございます。この方針につきまして、けやき台小学校、若葉小学校の児童の保護者、地域住民の方を対象とした説明会を27年11月に4回開催したところでございます。説明会の日程、また参加者数等につきましては資料のとおりとなります。

説明会では、最初にこちら教育委員会のほうから、その決定に至った経過であるとか方針内容についてご説明をし、2時間のうち1時間は参加された方からの質問に対してこちらがお答えをするという形で説明会を進めました。ただし、時間が限られている関係で、ご質問できる方が限られてしまうということがございましたので、当日、受付で参加された方全員に用紙をお配りしまして、そちらに質問、ご意見等を記入いただき、説明会后にそれを回収したところでございます。本日の資料7につきましては、その説明会でいただきましたご質問、ご意見等に対する教育委員会の考えをまとめた報告書となります。

この報告書につきましては、本日、教育委員会、そして、こちらの総合教育会議でご提示をした後に、明日以降、両校の保護者には学校を通じて配布をいたします。また、若葉町内の自治会につきましても、この報告書につきましては回覧という形で住民の方にごらんいただくような形をとってまいります。

報告書の構成でございます。資料の4のところでございますが、1から裏面で15までございますが、それぞれご質問、ご意見をいただいたものにつきまして、項目別に分類をし、それぞれにつきまして教育委員会の考えをお示ししたところでございます。

続きまして、5の今後の説明会の予定でございます。先ほど11月に4回説明会を開催

いたしましたが、その中で特に両校の保護者の方から、保護者を対象とした説明会を両校で開催していただけないかという要望をかなり多くいただきました。その要望を受けまして、1月22日、23日、これは午前と午後となりますが、若葉小で2回、けやき台小学校で1回、それぞれ保護者のみを対象とした説明会を開催いたします。

先ほどの報告書、資料7につきましては、明日以降、配布をいたしますので、この説明会につきましては、この資料をお読みになったうえで、またこの2時間という限られた時間でございますが、さらに質問等がございましたら教育委員会の考えを示し、統合等が順調に進むようにしていきたいと考えております。

また、2)のところでございますが、来年度以降、両校に入学します、現在、未就学児の保護者の方にも、今後大きな影響がございますので、2月20日土曜日、また2月27日土曜日、いずれも土曜日の午前中でございますが、けやき台小学校、若葉小学校、それぞれで未就学児の保護者を対象とした説明会も開催をし、理解を深めてまいりたいと考えております。

(清水市長)

以上の説明につきまして、ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

(田中教育委員長)

私のほうから事務局に御礼とあわせて私の考えを申し上げます。

まず1つ、今日、頂戴しました「けやき台小学校と若葉小学校の統合及び校舎の建替えに関する説明会報告書」を拝見しましても、今年の11月14日から実に4回にわたって地域保護者の方々に説明をしていただいています。参加者が309名と、たくさんの方が出席されております。そこで、しかもパワーポイントを使いながら丁寧に説明されている。それがまず1つ目です。

また、この説明会報告書をごらんになっておわかりのように、実は35ページにわたって詳細に書かれています。しかもそれに対してきちんとした教育委員会の方針、それを丁寧に書かれているということについて、ほんとうによくここまで丁寧にされたと感じ申し上げます。

あわせて、いろいろな皆さんからいただいた質問等を、質疑や提出用紙に寄せられたその他の意見、これが実に102、ここまで丁寧に掲載されながら示している。私もこれまでの経験から見て、ここまで丁寧にされたことは、経験上ありません。それほどよく丁寧にされているなということで、改めて事務局の方々に敬意を表します。

なおかつ、その後、今後の説明会の予定の中で、児童の保護者を対象にした説明会を1月22日から3回にわたって、さらに入学予定の未就学児の保護者を対象に2回、ここまで非常に詳細に、また丁寧に対応されていることについて、事務局の関係の方に心から御礼申し上げます。

その上で私の考えを申し上げます。今後、教育委員会の方針、これをもとに当初の計画どおりにお進めいただきたいと思っております。新校舎建設が1年遅れますと、市民の代表である議会による採択、これを軽視することになると思っております。強いては立川市の小学校の適正規模の基本的な考え方、これが大きく損なわれてしまいます。かつ、2つの小学校の新設校建設に期待している児童にやはり不利益をこうむることになるのではな

いかと、私はそのように考えております。

学校教育に対して保護者の方々から「次代を担う子どもたちのために、よい学校をつくってほしいと願っています」と、こういう声が寄せられていますし、あわせて「児童のことを第一に考えれば、学校を統合し新校舎になるのはよいことばかりです」。また、「若葉小学校の跡地の活用は地域の住民の要望を反映してほしい」等々の声がありました。将来を見据えて、子どもたちのための考え、意見をやはり尊重するのが教育の基本的な考えではないかと私は思います。したがって、将来のよき立川市民となる子どもたちの幸福を第一に考えることが教育の条理であると、そう思いますので、ぜひ今後とも教育委員会の方針をもとに進めていただきたいことを、私は強く要望いたします。

(清水市長)

ほかにご意見等、ございますでしょうか。

ないようでございますので、この件につきましては、これをもって終了をいたします。

### 3. その他

(清水市長)

次に、「その他」に移りますが、議事録の確認と次回の総合教育会議の開催日程について、企画政策課長から説明をお願いします。

(企画政策課長)

本日の議事録につきましては、従前と同じように作成をいたしました後に、まず皆様方のご発言等のご確認をお願いしたいというふうに思っております。よろしくお願いたします。

確認が済みしました後に、市ホームページ、市役所3階の市政情報コーナーにて公開をしたいと思っております。

また次回の総合教育会議の開催につきましては、4月以降、平成28年度に入りましてからの開催を予定しております。これから日程調整をさせていただきます、改めてお知らせいたしますのでよろしくお願いいたします。

(清水市長)

企画政策課長からの提案がございました。このことでよろしいでしょうか。

それでは、その提案を是といたしましてスケジュールを進めてください。

そのほか何かございましたらご発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

それでは、これもちまして、平成27年度第3回の立川市総合教育会議を閉会とさせていただきます。

どうもご協力、ありがとうございました。